

第 67 期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

- ①業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況 …… 1 ページ
- ②会社の支配に関する基本方針 …… 3 ページ
- ③連結計算書類の連結株主資本等変動計算書および連結注記表 …… 4 ページ
- ④計算書類の株主資本等変動計算書および個別注記表 …… 10 ページ

(平成 29 年 2 月 1 日から平成 30 年 1 月 31 日まで)

トミタ電機株式会社

法令および当社定款第 16 条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載することにより、ご提供しているものであります。

当社ウェブサイト <https://www.tomita-electric.com>

【業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況】

・業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

1. 当社および当社子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 取締役においては、取締役会規程の付議基準を整備し、業務執行についての重要事項を取締役会において決定する。また、取締役は、職務の執行状況を取締役会に報告するとともに、他の取締役の職務執行を相互に監視・監督する。
- (2) 使用人については、社内規程に基づく職務権限および意思決定のルールに従い、適正に職務の執行が行われる体制をとる。
- (3) コンプライアンス体制の強化をはかるため、内部通報受入窓口を設け、法令、定款および社内規程に関する通報および相談への対応を行う。
- (4) 当社の内部監査部門は、内部監査規程に基づき各部門の職務執行状況を把握し、法令、定款および社内規程に準拠して適正に行われているかを監査し、代表取締役に報告する。

2. 当社および当社子会社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報（電磁的記録も含む）については、法令および文書取扱規程に従い保存・管理する。

3. 当社および当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 業務の執行に係るリスクについては、リスク管理規程に従い、管理を行う。
- (2) リスクの管理方法等については、適宜見直しを行うこととする。

4. 当社および当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 取締役会は、定期的にまたは必要に応じて臨時に開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督等を行う。また、開催にあたっては事前に議題に関する十分な資料を可能な限り、全員に配付される体制をとる。
- (2) 取締役の機能を強化し経営の効率を向上させるため、部門担当者以上による営業戦略会議を適宜開催し、業務執行に関する基本的事項および重要事項に係る問題解決と意思決定を確実なものとする。

5. 当社および当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 当社は、関係会社管理規程に基づき、当社を中心とした企業集団全体の業務執行に関する報告、決裁の体制を明確にする。
- (2) 子会社の経営については、その自主性を尊重しつつも、事業内容の定期的な報告を受けるとともに、重要案件についての事前協議と適正な助言を行う。
- (3) 財務報告の適正性と信頼性を確保するため、金融商品取引法その他適用のある法令に基づき体制を整備、有効性を評価および改善等を行うものとする。

6. 当社の監査等委員会がその職務を補助すべき取締役および使用人を置くことを求めた場合における当該取締役および使用人に関する事項

監査等委員会が監査等委員会の職務を補助すべき取締役および使用人を置くことを求めたときは、これを置くものとし、その職務遂行に対する人事考課については、監査等委員会が行う。また、これらの使用人の人事異動、懲戒処分等については監査等委員会の合意のうえで取締役会が決定する。

7. 前号の取締役および使用人の他の取締役（監査等委員である取締役を除く）からの独立性に関する事項

取締役および使用人が監査等委員会の補助職務を遂行する場合は、取締役（監査等委員である取締役を除く）の指揮命令に服さないものとする。

8. 当社および当社子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く）および使用人が当社の監査等委員会に報告をするための体制および当該報告をしたものが当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保する体制

- (1) 当社および当社子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く）および使用人は、当社グループに著しい損害を及ぼす事実や違法・不正行為を発見したとき、またはそれらが発生するおそれがあるとき、監査等委員に対して、当該事項に関する内容を速やかに報告しなければならない。
- (2) 当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行なうことを禁止する旨を定め周知徹底する。

9. その他当社の監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 監査等委員は、定期的に会計監査人および内部監査部門と協議または意見交換を行うとともに、必要に応じて報告を求めることにより、監査の実効性を確保する。
- (2) 代表取締役との定期的な意見交換の場を設け、監査上の重要課題等について意見交換を行う。
- (3) 監査等委員は、当社および当社子会社の取締役会その他重要な会議へ出席するとともに、会社の重要情報を閲覧し、必要に応じて当社および当社子会社の取締役または使用人に対しその説明を求めることができるものとし、また、必要に応じて指示することができる。
- (4) 監査等委員の職務の執行について生じる費用等の前払いまたは償還の手続については、監査等委員の職務執行に必要でないと認められる場合を除き、速やかに処理するものとする。

10. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方・整備状況

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力や団体等に対し、社会常識と正義感を持ち、毅然とした態度で対応し、一切の関係を持たないことを基本的な方針とする。

管理本部総務課を反社会的勢力に対する統括部門と定め、必要に応じて警察や弁護士、その他外部の専門機関と連携して情報の収集・管理を行い、反社会的勢力を排除する体制の整備を推進する。

・業務の適正を確保するための体制の運用の状況

当社は、取締役会において決議された「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、内部統制システムを整備し運用しております。当事業年度における内部統制システムの運用状況の概要は以下のとおりであります。

1. 取締役の職務執行について

当事業年度において、取締役会を14回開催しており、取締役および使用人の職務執行が法令および定款に適合するように監督しております。

2. 監査等委員の職務執行について

当事業年度において、監査等委員会を6回開催しており、経営の妥当性、効率性、コンプライアンス、リスク等に関して幅広く審議検証し、経営に対して適宜、助言や提言を行いました。

取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役（監査等委員である取締役を除く）の職務執行について厳正な監視を実施しております。

また、会計監査人との情報交換に努め、相互連携により監査の実効性をはかっております。

3. 内部監査部門について

内部監査規程に基づいて子会社を含む各部門の職務執行状況を把握し、法令・定款・規程に準拠して適正に行われているか監査し、代表取締役に報告するとともに監査等委員・会計監査人と情報共有しております。

【会社の支配に関する基本方針】

該当事項はありません。

【連結計算書類の連結株主資本等変動計算書および連結注記表】
・ 連結株主資本等変動計算書

連結株主資本等変動計算書

(平成29年2月1日から
平成30年1月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利 益 剰 余 金	自己株式	株 主 資 本 計 合
平成29年2月1日残高	1,966,818	1,334,518	156,051	△227,107	3,230,281
連結会計年度中の変動額					
欠 損 填 補	—	△3,584	3,584	—	—
当 期 純 利 益	—	—	71,207	—	71,207
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	△170	△170
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
連結会計年度中の変動額合計	—	△3,584	74,792	△170	71,037
平成30年1月31日残高	1,966,818	1,330,934	230,843	△227,277	3,301,319

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額				純 資 産 計 合
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	土 地 再 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
平成29年2月1日残高	51,201	311,550	△19,683	343,068	3,573,349
連結会計年度中の変動額					
欠 損 填 補	—	—	—	—	—
当 期 純 利 益	—	—	—	—	71,207
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	—	△170
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	△35,639	—	△34,273	△69,912	△69,912
連結会計年度中の変動額合計	△35,639	—	△34,273	△69,912	1,125
平成30年1月31日残高	15,562	311,550	△53,957	273,155	3,574,474

(注) 千円未満は切り捨てにより表示しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社 TOMITA FERRITE LTD.
珠海富田電子有限公司

(2) 連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての在外連結子会社の決算日は、12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(3) 会計処理基準に関する事項

① 重要な資産の評価基準および評価方法

i 有価証券

その他有価証券で時価のあるものは、連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないものは、移動平均法による原価法によっております。

ii たな卸資産

主として先入先出法による原価法によっております。(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

i 有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法、ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。

在外連結子会社は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～40年

機械装置及び運搬具 2年～10年

その他 2年～15年

ii 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

iii リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

iv 長期前払費用

定額法によっております。

③ 重要な引当金の計上基準

i 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失の発生に備えるため、当連結会計年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

ii 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

iii 賞与引当金

当社は、従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

iv 役員退職慰労引当金

当社は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しております。

④ 退職給付に係る負債の計上基準

当社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑤ その他連結計算書類作成のための重要な事項

i 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

ii 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債ならびに収益及び費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

2. 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 4,622,487千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末 の株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 の株式数
普通株式	8,169,793株	一株	7,352,814株	816,979株

(注) 1. 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施しております。
2. 普通株式の発行済株式に係る株式数の減少7,352,814株は、株式併合による減少であります。

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末 の株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 の株式数
普通株式	1,572,787株	539株	1,415,959株	157,367株

(注) 1. 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施しております。
2. 自己株式の数の増加539株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。
3. 自己株式の数の減少1,415,959株は、株式併合による減少であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

該当事項はありません。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

該当事項はありません。

(4) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については原則として短期的な預金等を中心として元本が保証されるか、もしくはそれに準ずる安定的な運用成果の得られるものを対象としております。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用および為替変動リスクに晒されております。当該リスクについては、取引先ごとの期日管理および残高管理を行い、回収懸念の早期把握や軽減をはかっております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。保有する投資有価証券は主として上場株式であり、当該リスクについては、定期的に時価および基準価額を把握することで減損懸念の早期把握や軽減をはかっております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払費用はそのほとんどが4カ月以内の支払期日であります。

法人税、住民税及び事業税の未払額である未払法人税等はそのほぼすべてが2カ月以内に納付期日の到来するものであります。

預り保証金は、不動産の賃貸契約に際し、賃借人より預っている保証金および建設協力金等であり、一定期間または賃貸期間終了時において相手先に返済するものであります。

なお、デリバティブ取引については、行っておりません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
①現金及び預金	1,325,222	1,325,222	—
②受取手形及び売掛金	433,230	433,230	—
③投資有価証券	68,855	68,855	—
資産計	1,827,307	1,827,307	—
①支払手形及び買掛金	91,860	91,860	—
②未払法人税等	21,891	21,891	—
③未払費用	76,444	76,444	—
④預り保証金	136,329	136,329	—
負債計	326,526	326,526	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資産

①現金及び預金ならびに②受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

③投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

負債

①支払手形及び買掛金ならびに②未払法人税等、③未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

④預り保証金

これらの時価については、償還予定時期を見積り、国債の利回り等適切な指標で割引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	3,069
預り保証金	16,648

これらについては市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることができません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められることから、資産の「③投資有価証券」および負債の「④預り保証金」には含めておりません。

6. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、鳥取県鳥取市において、賃貸用の店舗施設（土地を含む。）を有しております。平成30年1月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は45,358千円であります。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

連結貸借対照表計上額 (千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
1,050,813	130,277	1,181,090	867,378

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額を路線価により補正しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 5,419円06銭

(2) 1株当たり当期純利益 107円95銭

(注) 平成29年8月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合したため、当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

【計算書類の株主資本等変動計算書および個別注記表】
 ・株主資本等変動計算書

株主資本等変動計算書

(平成29年2月1日から
平成30年1月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						株主資本計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
平成29年2月1日残高	1,966,818	1,334,518	1,334,518	△3,584	△3,584	△227,107	3,070,645
事業年度中の変動額							
欠損填補	—	△3,584	△3,584	3,584	3,584	—	—
当期純利益	—	—	—	5,162	5,162	—	5,162
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△170	△170
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	△3,584	△3,584	8,747	8,747	△170	4,992
平成30年1月31日残高	1,966,818	1,330,934	1,330,934	5,162	5,162	△227,277	3,075,638

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額	評価・換算差額等合計	
平成29年2月1日残高	51,201	311,550	362,751	3,433,397
事業年度中の変動額				
欠損填補	—	—	—	—
当期純利益	—	—	—	5,162
自己株式の取得	—	—	—	△170
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	△35,639	—	△35,639	△35,639
事業年度中の変動額合計	△35,639	—	△35,639	△30,646
平成30年1月31日残高	15,562	311,550	327,112	3,402,751

(注) 千円未満は切り捨てにより表示しております。

・個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準および評価方法

① 有価証券

関係会社株式は、移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券で時価のあるものは、事業年度末日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないものは、移動平均法による原価法によっております。

② たな卸資産

先入先出法による原価法によっております。(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法によっております。リース資産についてはリース期間定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物	7年～39年
構築物	3年～40年
機械及び装置	8年～10年
車輛運搬具	2年～6年
工具器具及び備品	2年～15年

なお、取得価額が100千円以上200千円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

② 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失の発生に備えるため、当事業年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

② 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

③ 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

④ 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(期末自己都合退職金要支給額)および年金資産に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

⑤ 役員退職慰労引当金

役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2. 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 2,966,992 千円

(2) 関係会社に対する短期金銭債権 27,595 千円
関係会社に対する長期金銭債権 124,360 千円
関係会社に対する短期金銭債務 32,482 千円

(3) 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)および「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年6月29日改正)に基づき事業用土地の再評価を行い、差額のうち、法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産評価額に基づいて、合理的な調整を行って算定しております。

再評価を行った年月日 平成14年1月31日

再評価を行った土地の当期末における時価と

再評価後の帳簿価額との差額 $\Delta 717,728$ 千円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売上高 87,653 千円
仕入高 348,895 千円
営業取引以外の取引高 3,359 千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株式の種類	前事業年度末の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	1,572,787 株	539 株	1,415,959 株	157,367 株

(注) 1. 当社は、平成29年8月1日付で株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施しております。

2. 自己株式の数の増加539株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

3. 自己株式の数の減少1,415,959株は、株式併合による減少であります。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

たな卸資産評価損否認	29,205 千円
土地	152,463 千円
投資有価証券評価損	6,160 千円
関係会社株式評価損	478,036 千円
受注損失引当金	30 千円
賞与引当金	3,794 千円
未払事業税	2,643 千円
退職給付引当金	5,673 千円
役員退職慰労引当金	88,977 千円
繰越欠損金	869,149 千円
減価償却超過額	53,569 千円
その他	939 千円
繰延税金資産小計	1,690,645 千円
評価性引当金	△1,690,645 千円
繰延税金資産合計	— 千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	6,404 千円
繰延税金負債合計	6,404 千円
繰延税金負債の純額	6,404 千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社および法人主要株主等

該当事項はありません。

(2) 役員および個人主要株主等

該当事項はありません。

(3) 子会社等

種類	会社等の名称	資本金 または 出資金	事業の 内容 または 職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	TOMITA FERRITE LTD.	191,360 千 香港ドル	電子材料 の輸出入 販売	(所有) 直接 100.0	役員 2 名	当社が 原材料 を販売 し、製品 を仕入 れ、当社 が製品 を販売	原材料の 販売	84,755	売掛金	16,089
									その他 流動資産	10,323
							製品の 販売	2,897	売掛金	1,182
							製品の 仕入	348,895	買掛金	32,482
							利息の 受取	3,089	関係会社 長期貸付 金	124,360
増資の引 受	581,897	—	—							

取引条件および取引条件の決定方針等

1. 原材料の販売については、当社の予定原価に基づいて決定しております。
 2. 製品の販売については、市場価格を勘案し、決定しております。
 3. 製品の仕入については、市場価格を勘案し、決定しております。
 4. 資金の貸付については、市場金利を勘案し、合理的に決定しております。
 5. TOMITA FERRITE LTD. に対する増資の引受は、同社が行った株主割当を引受けたものであり、デットエクイティスワップを実行しております。
- (注) 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 5,158 円 72 銭

(2) 1株当たり当期純利益 7 円 83 銭

(注) 平成 29 年 8 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株の割合で併合したため、当事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。